

	必須			重要			疑問			合計	RDI
	平易	中等		平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午後 47	15	1		9	5	0	0	0	0	30	0.733
午後 54	15	1		10	3	1	0	0	0	30	0.733
午後 88	16	1		8	4	1	0	0	0	30	0.733
午前 86	15	3		8	4	0	0	0	0	30	0.737
午前 89	15	2		9	4	0	0	0	0	30	0.737
午前 85	17	0		7	6	0	0	0	0	30	0.737
午前 130	16	1		8	5	0	0	0	0	30	0.737
午後 27	16	1		8	5	0	0	0	0	30	0.737
午前 96	14	0	14	2	0	0	0	0	0	30	0.740
午後 21	18	1		6	5	0	0	0	0	30	0.743
午後 24	12	1		5	11	1	0	0	0	30	0.743
午前 15	18	6	2	3	0	1	0	0	0	30	0.743
午前 56	18	2	6	3	1	0	0	0	0	30	0.743
午前 54	16	1	12	0	1	0	0	0	0	30	0.747
午前 87	16	1	11	2	0	0	0	0	0	30	0.747
午前 7	19	3	4	3	0	1	0	0	0	30	0.747
午前 95	17	1	9	3	0	0	0	0	0	30	0.747
午後 31	17	1	9	3	0	0	0	0	0	30	0.747
午前 52	17	1	10	2	0	0	0	0	0	30	0.750
午前 67	17	1	10	2	0	0	0	0	0	30	0.750
午前 69	17	2	9	2	0	0	0	0	0	30	0.750
午前 74	17	2	9	2	0	0	0	0	0	30	0.750
午前 29	22	2	1	4	1	0	0	0	0	30	0.753
午前 61	20	2	5	2	1	0	0	0	0	30	0.753
午前 68	18	0	10	2	0	0	0	0	0	30	0.753
午前 78	19	2	7	1	1	0	0	0	0	30	0.753
午後 4	19	3	5	3	0	0	0	0	0	30	0.753
午前 21	20	5	2	3	0	0	0	0	0	30	0.757
午前 16	23	2	2	2	1	0	0	0	0	30	0.763
午前 5	22	1	4	3	0	0	0	0	0	30	0.763
午前 25	20	4	5	1	0	0	0	0	0	30	0.763
午後 26	11	2	4	10	1	0	1	1	1	30	0.767
午前 17	22	2	5	1	0	0	0	0	0	30	0.770
午前 18	23	1	4	2	0	0	0	0	0	30	0.770
午前 12	22	5	3	0	0	0	0	0	0	30	0.773
午前 8	23	0	7	0	0	0	0	0	0	30	0.777
午前 22	24	2	3	1	0	0	0	0	0	30	0.777
午前 6	25	0	4	1	0	0	0	0	0	30	0.780
午前 10	24	1	5	0	0	0	0	0	0	30	0.780
午前 14	25	2	2	1	0	0	0	0	0	30	0.780
午前 26	25	2	2	1	0	0	0	0	0	30	0.780
午前 2	25	1	4	0	0	0	0	0	0	30	0.783
午前 9	26	1	2	1	0	0	0	0	0	30	0.783
午前 19	25	2	3	0	0	0	0	0	0	30	0.783
午前 30	26	2	1	1	0	0	0	0	0	30	0.783
午前 3	26	0	4	0	0	0	0	0	0	30	0.787
午前 4	26	0	4	0	0	0	0	0	0	30	0.787
午前 11	27	0	2	1	0	0	0	0	0	30	0.787
午前 20	26	1	3	0	0	0	0	0	0	30	0.787
午前 1	27	0	3	0	0	0	0	0	0	30	0.790
午前 24	28	1	1	0	0	0	0	0	0	30	0.793
午前 27	29	0	1	0	0	0	0	0	0	30	0.797
午前 28	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0.800
合計	2821	535	1500	1610	483	48	48	153	7198	165.950	
平均	11.8	2.23	6.25	6.71	2.01	0.2	0.2	0.64	30	0.691	
標準偏差										0.059	
平均+2SD										0.810	
平均-2SD										0.573	
平均+1SD										0.751	
平均-1SD										0.632	

*/29

平均+1SD

平均+2SD

* #13.26.27.31.33.34の6名(記入漏れ7問以上)を除く...A群

* #1.3.4.8.14.15.29.36の8名(記入漏れ7問まで)...B群

M-2SD

備考

午前	116	0.4367	成人看護
午前	110	0.4533	成人看護
午前	38	0.5	疾病の成り立ちと回復の促進
午前	125	0.5367	小児看護
午前	147	0.5367	精神看護
午前	94	0.5567	成人看護
午前	112	0.5567	成人看護
午前	73	0.5667	基礎看護
午後	12	0.5667	人体の機能と構造

9問
成人 4
疾病 1
精神 2
小児 2

M-1SD

午後	76	0.5767	母性看護(状況設定)
午前	39	0.58	疾病の成り立ちと回復の促進
午前	71	0.5833	基礎看護
午前	117	0.5833	成人看護
午前	105	0.5867	成人看護
午前	100	0.5933	成人看護
午後	42	0.5933	成人看護(状況設定)
午前	104	0.6	成人看護
午前	148	0.6	疾病の成り立ちと回復の促進
午前	106	0.6067	成人看護
午前	13	0.61	必修問題
午前	33	0.61	疾病の成り立ちと回復の促進
午前	40	0.61	疾病の成り立ちと回復の促進
午前	102	0.61	成人看護
午後	45	0.6167	成人看護(状況設定)
午後	44	0.6172	成人看護(状況設定)
午前	36	0.62	疾病の成り立ちと回復の促進
午後	84	0.62	精神看護(状況設定)
午後	90	0.62	精神看護(状況設定)
午前	51	0.63	社会保障制度と生活者の健康
午前	123	0.63	小児看護
午前	128	0.63	小児看護
午後	48	0.63	成人看護(状況設定)

23問
成人 10
疾病 5
精神 2
小児 2
必修 1
社会保1
基礎 1
母性 1

M+1SD

備考

午前	29	0.7533	必修問題
午前	61	0.7533	基礎看護
午前	68	0.7533	基礎看護
午前	78	0.7533	基礎看護
午後	4	0.7533	必修問題
午前	21	0.7567	必修問題
午前	16	0.7633	必修問題
午前	5	0.7633	必修問題
午前	25	0.7633	必修問題
午後	26	0.7667	老人看護
午前	17	0.77	必修問題
午前	18	0.77	必修問題
午前	12	0.7733	必修問題
午前	8	0.7767	必修問題
午前	22	0.7767	必修問題
午前	6	0.78	必修問題
午前	10	0.78	必修問題
午前	14	0.78	必修問題
午前	26	0.78	必修問題
午前	2	0.7833	必修問題
午前	9	0.7833	必修問題
午前	19	0.7833	必修問題
午前	30	0.7833	必修問題
午前	3	0.7867	必修問題
午前	4	0.7867	必修問題
午前	11	0.7867	必修問題
午前	20	0.7867	必修問題
午前	1	0.79	必修問題
午前	24	0.7933	必修問題
午前	27	0.7967	必修問題
午前	28	0.8	必修問題

31問	必修30・老人1
-----	----------

M+2SD なし

6. 問題ごとの分析

下表の内容をもとに各問題の分析を行った。

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
国家試験問題番号										学生アンケート者数	
出題基準											該当者数
国家試験 問題本文											
各問題に関するディスカッション内容											
1		選択肢それぞれに対するディスカッション内容									
2											
3											
4											

【問題分析結果の概要】

- 1) 臨地実習などであまり遭遇しないような状況に関する問題に対して、重要であるが、困難と感じていた。
- 2) 身体の構造機能に関する基礎的な問題を回答困難と感じている傾向にあった。
- 3) 臨地実習で体験場面が少ない検査に関する問題を解答困難と感じる傾向にあった。
- 4) バスボードなどの耳慣れない専門用語に感わされ問題を困難と感じていた。専門用語の浸透性を検討しておく必要がある。

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午後 76	母性 状況	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	30	0.5767
		5	0	3	10	8	0	0	4		
<p>【出題基準】 母性看護で出題されているが、小児看護の出題基準の内容である。 目標 1 大項目 2 中項目 D a) 身体面のアセスメント</p>											
<p>【問題】 妊娠 39 週。体重 3,100g で正常に出産した生後 12 時間の新生児。体温 36.8℃。心拍数 144/分、呼吸数 62/分。呼吸はやや不規則、肺雑音(-)。顔面に点状出血が少量みられる。おむつにはレンガ色のしみがみられる。 児のアセスメントで最も注目すべき情報はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顔面の点状出血 2. 呼吸数 3. 呼吸の不規則性 4. おむつのレンガ色のしみ 											
<p>【傾向】 ・学生アンケートの結果によると、この問題は重要と認識しているが、問題レベルは中等～困難と感じていた。 ・以下の回答肢に対する指摘からもわかるように、これらの回答肢の中には正答がないと考えざるを得ない。最も注目すべき情報はどれかと問うているが、正しい回答肢がないのでどの回答肢も優劣がつけられない。このような状況であるが、特に回答肢 2 と 3 で迷ったのではないかと考える。</p>											
回答肢番号	回答肢の問題点										
1	経膈分娩では点状出血は発生する。										
2	呼吸数 62/分は多いと判断できる。教科書によると新生児の呼吸数正常値は 40 から 50 と示されている。しかし、書籍によっては 40 から 60 と示されたものもあり、60 を正常範囲内とすると必ずしもこの数字は多いと断定できる数字ではない。										
3	問題に示されている情報は、「やや不規則」なので最も重要視する結果ではない。このようにややと言う言葉はあいまいな表現であるので使用してはならない。										
4	新生児の尿は時おりレンガ尿を示すこともあるので、これも重要な情報ととらえることはできない。										

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 39	疾病 の成	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	30	0.58
		5	1	2	9	10	0	0	3		

【出題基準】

目標3 大項目2 中項目C e)心臓のリズムの障害

【問題】

モニター心電図は規則正しかったが、1分前から図のような波形がみられた。

自覚・他覚症状で考えられるのはどれか。

(図) 期外収縮が単発でている心電図。

1. めまい
2. 意識消失
3. 脈拍欠損
4. 血圧低下

【傾向】

・この問題は重要と学生は感じているが、その内容が困難であるあるいは中等レベルと受け止めている学生は同程度の人数であり、結果は大きく分かれた。しかし、出題された問題は良問であるとする。
 ・心電図の問題は頻繁に出題されるが、心電図の結果を判断できる学生は少ない。なぜならば、実際の波形が身に付く学習先といえば臨地実習であるが、ゆっくり学習する臨地実習先領域は限られているからである。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 71	基礎									30	0.5833
	看護	4	3	3	10	5	0	1	4		

【出題基準】

目標 2 大項目 2 中項目 B b) 栄養状態の評価

【問題】

Aさんは、朝食と昼食は食べられず、夕食に梅干し1個でご飯を茶碗1/2杯食べた。日中に5%ブドウ糖500mlの点滴静脈内注射を受けた。Aさんのおおよその摂取エネルギーはどれか。

1. 140 kcal
2. 180 kcal
3. 250 kcal
4. 330 kcal

【傾向】

・回答を導き出すためには、まずごはん茶碗半分のカロリー計算とブドウ糖1グラムのカロリー計算と500ミリリットルの5%のミリリットル計算の3つに関する計算ができなければならない。基本的な知識とそれをもとにした計算結果を総合させる良問である。

しかし、多くの学生は重要であると思っているが、他の問題と比較すると、出題されることに疑問に感じ、そのレベルを困難と思っている学生がかなり存在している。

・問題の特徴は確かに解釈型で難しいが、出題されることを疑問に感じる学生がいることは、重要な内容であることを教えていないことに課題を感じる。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 117	成人									30	0.5833
	看護	6	2	1	11	5	0	0	5		

【出題基準】

目標 4 大項目 9 中項目 B a) 尿流動態検査、膀胱検査時の看護
c) 膀胱留置カテーテル時の管理

【問題】

経尿道的前立腺切除術後 1 日の患者。尿流出は順調であるにも関わらず「尿が出ない」と膀胱留置カテーテルの違和感を強く訴えた。

対応で適切なのはどれか。

1. 鎮痛薬を使用する。
2. 持続膀胱洗浄の速度を速める。
3. 膀胱留置カテーテルを抜去する。
4. 細い膀胱留置カテーテルに入れ替える。

【傾向】

・問題の出題を疑問と受け止め、レベルも困難と考える学生、あるいは重要と考えていても、レベルは困難と考えている学生がかなり多い。

・回答肢 1、2、3、4 のこれらすべての判断では、これらを実施する場合には医師の指示が必要である。また、特に泌尿器の術後であるため、回答肢 2、3、4 は看護師による判断だけで行うのは危険を伴う。このような理由から判断すると、どの選択肢にも回答がないと考えるを得ない。

・問題を改変するならば、質問を「医師への提言で適切なのはどれか？」という設題にすると看護判断を評価する出題となる。その結果、看護師の対応として適切な回答肢は、体位の変換やカテーテル固定の変化などであると考えられる。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	医師の判断による指示を伴う必要は行為である
2	速度をはやめることを行ってもカテーテルの違和感の改善には効果をもたらさない
3	安易に勝手に抜去を行ってはならない
4	入れ替えも医師による指示が必要である。この術後では入れ替えは出血のリスクもあるため危険である

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 105	成人									30	0.5867
	看護	1	3	2	15	8	0	0	1		

【出題基準】

目標 4 大項目 4 中項目 B a) 甲状腺切除術時の生活指導

【問題】

甲状腺右葉切除術後 1 日目の患者への説明で適切なのはどれか。

1. 「手指は数日しびれます」
2. 「今日は手を出さないでください」
3. 「ネックカラーで首を固定して歩きます」
4. 「むせないようにゆっくり食べてください」

【傾向】

・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が 8 人、中等レベルと感じている学生が 15 人もいた。

・看護ケアを行う際の声かけの内容は教科書にそのまま載っていない。どのような声をかけるかは、これまでの知識を使って、状況に応じて考えていかなければならない。このように統合的な判断を求めることになるので、問題のレベルとしては難しい。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	反回神経麻痺ではなく、上咽頭神経の損傷による誤嚥も考えられる

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
午前 100	成人 看護	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	30	0.5933
		2	4	2	12	9	0	0	1		

【出題基準】

目標 4 大項目 2 中項目 B a) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助

【問題】

冠状動脈造影検査で穿刺に最も多く用いるのはどれか。

1. 総頸動脈
2. 橈骨動脈
3. 尺骨動脈
4. 鎖骨下動脈

【傾向】

・問題は重要だが、レベルは困難であると感じている学生が9人、中等レベルであると感じている学生が12人もいた。

・看護師として必要なミニマム基準として穿刺の部位を知っておくことが重要なのか。出題基準として妥当であるか、その妥当性で疑問がある。

・患者の苦痛をさけるために、医学書院専門7P66には大腿動脈が示されているが、今回の出題では大腿動脈がないので橈骨動脈を選択せざるを得ない。

・「もっとも負担が少ない穿刺部位はどれか」という問いであるとその回答は異なってくる。このように考えると、「最も多く用いる」というだけでは、出題の意図によっては異なる回答になる可能性を含むことになる。例えば、「患者の苦痛の基準からもっとも用いられるのはどれか」「患者の安楽の基準からもっとも用いられるのはどれか」という問いになると回答は違うことになる。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午後 42	成人									30	0.5933
	状況	2	4	2	12	9	0	0	1		

【出題基準】

目標 4 大項目 6 中項目 B a) 光凝固・硝子体手術の看護

【問題】

55歳の男性。会社員。自家用車で通勤し、仕事ではパーソナルコンピューターを常時使用している。突然、左眼の視野欠損を生じ、眼科を受診した。診察の結果、左眼裂孔原性網膜剥離のため手術が必要であり、3日後に入院するよう説明された。

手術後10日に軽快退院することになった。退院前の説明で適切なのはどれか。

1. 「再発の危険はありません」
2. 「夜はうつぶせで休みましょう」
3. 「日中はサングラスが必要です」
4. 「眼帯を装着する必要はありません」

【傾向】

・問題は重要だが、レベルは困難であると感じている学生が9人、中等レベルであると感じている学生が12人もいた。

・眼科疾患に関する科目は受験領域科目として明確にされてはいない。眼科などこまかいところまで勉強してないのではないかと考える。

・選択肢は消去法で選ぶとすれば4が残るが、これも正解とするには曖昧である。

・選択肢の1～3の文末は肯定型であり、回答肢4のみ否定形であり、選択肢4のみが異なっていることが分かる。肯定型にするには、例えば「再診にはかならず来てください」「症状がでたらすぐに連絡してください。」などが考えられる。

・眼科の術後10日後の設定であるが、学生にはその状況を考えることはむずかしい。

・術直後の状態の情報がないので、個別に注意すべきことが不明である。その割には、車を運転していることとか、仕事ではパーソナルコンピューターを常時使用していることなどの情報を生かした出題ではなく、これらの情報は必要ない。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	再発する可能性はある
2	ガスはもう吸収されている
3	サングラスは必要というわけではない
4	眼帯ははずして退院する

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 104	成人									30	0.6
	看護	3	3	3	13	6	0	0	2		

【出題基準】

目標 3 大項目 2 中項目 B 1) ドレナージと与薬の管理

目標 4 大項目 3 中項目 E d) 腸切除術の合併症の予防と看護

【問題】

膵臓癌で膵頭十二指腸切除術後 1 日目に挿入されているチューブとその目的の組合わせで正しいのはどれか。

1. 胃管———栄養補給
2. 硬膜外チューブ———髄圧測定
3. 腹腔内ドレーン———腹腔内洗浄
4. 中心静脈カテーテル———中心静脈圧測定

【傾向】

・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が 6 人、中等レベルと感じている学生が 13 人もいた。しかし、問題は困難と感じるレベルの内容ではないと考える。

・設問分がなくても選択肢だけで回答が可能である。このような状況から判断すると、膵頭十二指腸切除術でなくてもよいのではないかと考える。困難と感じるのは、術式によるひっかけなのではないかと考える。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 148	精神									30	0.6
	看護	2	3	5	9	10	0	1	0		

【出題基準】

目標 3 大項目 2 中項目 A a)精神保健福祉法の基本的な考え方 または b) 精神保健福祉法による入院の形態 または回答からすると 大項目 1 中項目 B a)のインフォームドコンセントではないか

【問題】

「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」の平成 7 年(1995 年)改正で充実が図られたのはどれか。

1. 精神障害者の福祉
2. 通院医療費の公費負担
3. 社会復帰施設の法制化
4. 患者の意思に基づいた入院形態

【傾向】

・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が 10 人、中等レベルと感じている学生が 9 人もいた。法律に関することは重要と考えるが、十分教授され、学習を積み重ねないとわからない出題領域と考える

・しかし、学生が学習している時期を考えるとむしろ自立支援法を教えているのではないかと考える。

・題材として、なぜこの 1995 年の法律なのかと題材としての妥当性に疑問が残る

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
午前 106	成人	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	30	0.6067
	看護	3	3	2	14	7	0	1	0		

【出題基準】

目標 4 大項目 4 中項目 D d) 血液透析・腹膜透析の管理

【問題】

連続携行式腹膜透析法(CAPD)で最も適切なのはどれか。

1. 入浴はできない
2. スポーツは制限なく行える
3. 低エネルギー食にする必要がある
4. バック交換は通気のよい場所で行う

【傾向】

・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が7人、中等レベルと感じている学生が14人もいた。腹膜透析の原理を理解を問う問題であるが、腹膜透析時の食事に関する知識までを求めるとなると難易度が高いのではないかと考える。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	これだけ否定系の表現である。「入浴してよい」がいいのではないかと考える。
2	スポーツは制限なく行えるとあるが、“制限なく”とはどこまでを想定するか、迷ってしまう
3	低エネルギー食とはどこまでを示すのか。しかし、CAPDは高濃度ブドウ糖を使用するので、これを理解していれば回答できる
4	通気のよい場所とはどんな場所を想定しているのであろうか。設題の意図は通気が良いのではなく、むしろ清潔な場所を想定して出題しているのではないかと考える。

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
午前 13	必修 問題	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	30	0.61
		5	8	1	5	8	0	1	2		
<p>【出題基準】</p> <p>Ⅲ 大項目 1 中項目 A a) 血液</p>											
<p>【問題】</p> <p>血液中の総ヘモグロビンに対する酸素化ヘモグロビンの割合を表すのはどれか。</p> <p>1. 酸素飽和度 2. 動脈血酸素分圧 3. ヘマトクリット値 4. ヘモグロビン濃度</p>											
<p>【傾向】</p> <p>・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が 8 人、出題を疑問に感じている学生が 3 人かつ困難と感じている学生が 2 人もいた。酸素化ヘモグロビンを知っているだけでなく、それが具体的に何を表すのかを知っていなければ回答できない問題である。</p>											
回答肢番号	回答肢の問題点										
1											
2											
3											
4											

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 33	疾病 の成	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	30	0.61
		3	4	1	14	8	0	0	0		
<p>【出題基準】 目標 2 大項目 2 中項目 A d)循環障害</p>											
<p>【問題】 心血管系の症状とアセスメントの組み合わせで正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頸動脈の怒張———中心静脈圧の低下 2. 心尖拍動部の左方移動———右心室肥大 3. 拡張期心雑音———弁の障害 4. 大腿動脈拍動の減弱———レイノー病 											
<p>【傾向】 ・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が8人、中等レベルと感じている学生が14人もいた。問題は解釈型の良問であると考え。しかし、回答肢4の示し方に迷う部分がある。</p>											
回答肢番号	回答肢の問題点										
1											
2											
3											
4	血管のれん縮がおこると動脈拍動の減弱はおこり得るが、それは大腿動脈とは限らない。										

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
午前 40	疾病 の成	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	30	0.61
		6	2	3	8	9	0	1	1		
【出題基準】 目標 3 大項目 3 中項目 B b) 消化管の腫瘍											
【問題】 大腸癌で正しいのはどれか。 1. 男性の悪性新生物死亡数で第 1 位である。 2. 発生部位では直腸癌の割合が増加している。 3. 食物繊維摂取量を減らすことが予防に有効である。 4. 便潜血反応 2 日法を一時スクリーニングに用いる。											
【傾向】 ・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が 9 人、中等レベルと感じている学生が 8 人いた。回答肢は同一の範疇の事象であることが望ましいといわれているが、死亡数、発生部位、予防、検査というように多くの事象を含んでいるので困難と感じたのであろう。											
回答肢番号	回答肢の問題点										
1											
2											
3											
4											

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 102	成人									30	0.61
	看護	4	2	1	15	7	1	0	0		

【出題基準】

目標 4 大項目 3 中項目 E b) 消化管内視鏡・造影検査時の援助

【問題】

大腸内視鏡検査で正しいのはどれか。

1. 検査 2 日前から食物残渣の少ない食事をする。
2. 検査前日の夕食後から絶飲食とする。
3. 検査当日に経口腸管洗浄薬を服用する。
4. 検査直前に肛門周囲の局所麻酔をする。

【傾向】

・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が 7 人、中等レベルと感じている学生が 15 人もいた。問題は良問であり、回答肢の配列にも順序性が考慮されていると考える。しかしながら、全般的に検査に関する設題は困難と感じるようである。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午後 45	成人									30	0.6167
	状況	5	4	3	10	6	0	0	2		

【出題基準】

目標 4 大項目 1 中項目 B c)肺切除術の看護

【問題】

45歳の女性。2ヶ月前から咳嗽と喀とが出現した。最近、倦怠感も強くなったため受診した。胸部エックス線写真で左肺上葉に異常陰影を認め、精査と治療とを目的に入院した。左肺上葉切除術後2日目、右肺下葉で呼吸音が聴取されない。体温37.4℃。呼吸は浅表性で25/分、血圧164/96mmHg。鼻カニューレで3l/分の酸素吸入を行い、経皮的動脈血酸素飽和度86%。胸腔ドレーンは-10cmH₂Oで低圧持続吸引している。痰がからんでいるため喀出を促したが「痛くてそれどころではない」と顔をしかめた。対応で最も適切なのはどれか。

1. 酸素投与量を増やす
2. 去痰薬の吸入を行う
3. 気管支鏡による気管内吸引の準備をする
4. 胸腔ドレーン吸引圧をあげる

【傾向】

・問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が6人、中等レベルと感じている学生が10人いた。問題そのものを疑問と感じている学生は2人いた。

・この問題は臨床判断能力が必要であり、臨床の立場でも意見が分かれる難易度が高い問題であると考える。なぜならば、回答肢の1、2、4は看護師のみの判断で行うことができない行為だからである。回答肢3では行為そのものは準備なので看護師の判断で行うことは可能であるが、それを問う問題であるのであれば、患者の状態をアセスメントしたケアを問う問題ではない。また、回答肢1、2、4において仮に暗黙の了解で医師の判断が既に出されているときの判断行為であるとしても、2、3はどちらを先に選択すべきか判断に迷う。回答肢2、3の判断は臨床判断能力を必要とする問題である。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	酸素投与量は看護師の判断で行ってはならない。当然医師の指示で行うため、「もしこのような状況の場合は酸素投与量の増加をしてもよい」などの医師の指示が既に出されているかどうかの設定が省略されているか不明である。看護師の判断で行うことができないが、下葉無気肺が疑われるのであれば、酸素投与量を増やすよりも、まずは無気肺となった部分の再還流が必要である。
2	痰がからんでいるが、去痰薬の吸入も医師の指示が必須である。
3	
4	

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
午後 44	成人	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	29	0.6172
	状況	8	3	2	6	7	0	0	3		

【出題基準】

目標 4 大項目 1 中項目 B c)肺切除術の看護

【傾向】

45歳の女性。2ヶ月前から咳嗽と咯とが出現した。最近、倦怠感も強くなったため受診した。胸部エックス線写真で左肺上葉に異常陰影を認め、精査と治療とを目的に入院した。検査の結果、左肺上葉の腺癌と診断され、開胸左肺上葉切除術が予定された。術前肺機能検査結果は70%、1秒率85%であった。手術前の呼吸訓練で適切なのはどれか。

1. 短速呼吸
2. 胸式呼吸
3. ロすぼめ呼吸
4. 間欠的陽圧呼吸(IPPB)

【傾向】

・問題に疑問を感じ、困難と感じている学生が3人いる。さらに問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が7人、中等レベルと感じている学生が6人もいた。

・IPPB (Intermittent positive pressure breathing) は人工呼吸器によって間欠的に陽圧で酸素・薬液を送り込む方法(ネブライザ療法)で肺胞換気をする(医学書院臨床外科看護各論 p 72)と書いてある。一般的に教える術前訓練(呼吸訓練)の器具を用いた呼吸訓練とは、ゆっくりと一定の速さで持続的に吸入することによって肺を拡張させる方法としてトライボールレスピフローを教える。そして呼気時に抵抗を与えることによって、呼出時間を延長し、残気量を減らすことを目的にしたものはスーフルであると教えているが間歇的陽圧呼吸(IPPB)はなかなか教えていない。

トライボール・レスピフロー(トリフロー)を使つての呼吸訓練のことも間歇的陽圧呼吸の一種とみなすことができるか、教科書によってその用語の使い方がまちまちで、内容や表現が異なっている。このように学生は混乱を起こすので回答肢としては不適切である。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	短速呼吸は落ち着いて考えれば想像はつくが、基礎教育レベルでは教えない内容であるので、学生にとっては戸惑う回答肢である。
2	
3	ロすぼめ呼吸は閉塞性障害の時に有効である。この事例は検査データより拘束性障害であるので、間違いであるが、拘束性か閉塞性が判断できないと回答できない。
4	間欠的陽圧呼吸(IPPB)は教えていない。

問題番号	領域	必須		重要			疑問			n	RDI
		平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
午前 36	疾病 の成	3	6	2	13	5	0	0	1	30	0.62

【出題基準】

目標 2 大項目 2 中項目 B a)おもな治療薬・麻酔薬と薬理作用

【問題】

麻酔前投薬で気管支粘膜からの分泌抑制を目的に使用するものはどれか。

1. モルヒネ
2. アトロピン
3. ジアゼパム
4. ペンタゾシン

【傾向】

・問題に疑問を感じ、困難と感じている学生は 1 人である。しかし、問題は重要と考えているが、問題のレベルが困難と感じている学生が 5 人、中等レベルと感じている学生が 13 人もいた。

・麻酔前投薬は最近使用されなくなってきている。麻酔前投薬という部分がなくても回答できる。

・学生は薬剤に関する出題は苦手である。特に薬品名が苦手である。今回の選択肢であるモルヒネ、アトロピン、ジアゼパム、ペンタゾシンは薬品としてはオーソドックスな、使用頻度の高い、学習機会の多い、薬品である。それぞれの主作用を理解していれば、消去法で回答が可能であるので、問題としては難易度も重要度も適切であると考ええる。

・この問題を学生が難しいと感じるのであれば、さらに薬理学の授業を充実させる必要がある。

回答肢番号	回答肢の問題点
1	
2	
3	
4	